

平成30年度 東毛地区小学校体育科授業研究会 レポート

○日時：11月22日（木）

○会場：みどり市立大間々南小学校

○単元名：器械運動（鉄棒運動）

ボール運動（ハンドボール）

○指導者：関口 明宏 教諭

永田 博秋 教諭

今年度の東毛地区の授業研究会は、みどり市立大間々南小学校の関口先生と永田先生が授業を提供してくださいました。今回、公開していただいたのは器械運動（鉄棒運動）とボールゲーム（ハンドボール）です。どちらの授業も大変勉強になる研究会となりました。

【授業1 器械運動（鉄棒運動）】

- ・本授業は、新指導要領の評価の3観点と改訂の趣旨を踏まえて構想したものでした。具体的には、個人の課題解決を重視するために、全体に提示する活動のめあてと個人の課題を別にするということです。そのために、自力解決の時間にかかえ込み前回りの自分にとって大切なポイントをタブレットカメラやグループ内でのアドバイスなどを元に見つける活動を設定しました。
- ・授業後には、関口教諭から話を聞くことができました。

「授業前は、個人の課題解決を重視しているため、グループでの大切なポイントの順位付けの話し合いが有効なのか疑問でした。しかし、実際は3年生という発達段階からも、個人の課題がつかみにくい子も多いため、話し合い活動が気付きに繋がりました。その点では有効だったと思います。かかえ込み前回りは、支持回転技の基礎となる重要な技だと思いますので、ぜひ、身につけさせていきましょう。」



鉄棒リーフレットや掲示物を活用して、グループ内で話し合い、練習方法を選んでいます。児童の気付きが多く見られる場面でした。



話し合った内容を元に、実践へとつなげていきます。自分に合った練習方法と関口教諭の適切なアドバイスで、技能の向上が見られました。

全体を通して、児童がアドバイスをしながら生き生きと活動していました。鉄棒運動は、なかなか公開授業の実践例が少ない種目であり、参観している私たちにとって、大変興味深く勉強になる授業となりました。

【授業2 ボール運動（ハンドボール）】

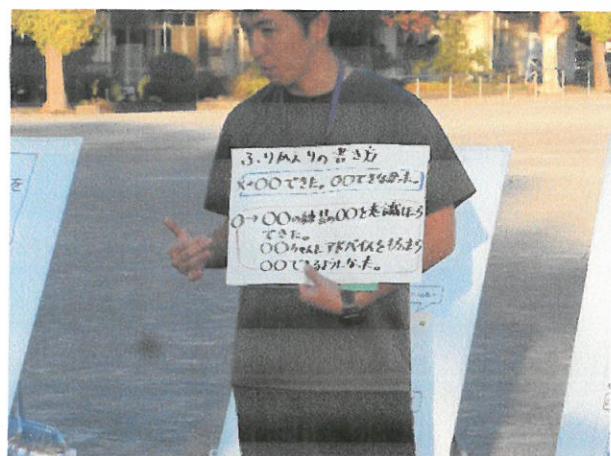
・本授業は、日常ではあまり実践されていないハンドボールの授業でした。ハンドボールはバスケットよりもゴールが大きく、サッカーのように足ではなく、手でボールを扱えることから、クラスの実態を考え構想されました。授業では、個々の課題を意識させ、チームの課題へと発展させていくこと、そして、チームでの話し合いが2試合目に生かされることをねらって活動が組み合わされていました。

・授業後には、永田教諭から話を聞くことができました。

「ハンドボールという競技で授業実践するのは初めてでした。最初は、不安もありましたが徐々に児童も競技特性に慣れていき楽しく活動することができました。本授業では、個々の課題を意識した「話し合い」と「ふり返り」に重点を置きました。特に、ふり返りの方法を明示したことで児童にとって意味のあるものとなったように感じます。ぜひ、みなさんもハンドボールの授業を実践してみてください。」



チーム毎に話し合いながら、「個人の課題」から「チームの課題」へと発展させて確認しています。この後、課題を意識しながらの2試合目のゲームを実践しました。



授業の終わりには、永田教諭からふり返りの観点が明示されました。
例)「〇〇の練習で〇〇を意識したらできるようになった」

全体を通して、児童のつぶやきが多く、個々のめあてを意識しながら授業が進められていました。児童同士の認め合いも多く、とても気持ちの良い授業でした。私自身もハンドボールの授業を経験したことなく、大変勉強になる授業でした。

【授業研究会】

授業後には、2つの授業について分科会で研究会が行われました。授業についての先生方の熱心な話し合いから、今後の授業実践に対する意気込みが伝わってきました。また、指導主事の方より、新学習指導要領を踏まえた体育授業に関する指導をいただきました。

この度の公開授業及び研究会は、よりよい体育授業の実践につながる貴重な機会となりました。授業を提供して下さった関口先生、永田先生、そして、会場を提供してくださったみどり市立大間々南小学校の先生方、研究会開催にご尽力頂いた皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

（文責：太田市立鳥之郷小学校 峯岸靖典）